

**回遊性のあるまちづくり、観光施設・
機能の充実推進部会**

回遊性のあるまちづくり(まちなか観光)

第二次アクションプラン

平成22年4月

飯 山 市

回遊性のあるまちづくり（まちなか観光） 第二次アクションプラン

1. 目的

新幹線アクションプランの策定に伴い、まちなか観光の振興、観光まちづくりをどのように進めるか。その方向性をさぐり、実質的なアクションを起こすために第二次アクションプラン第1期(H22~24)を策定する。

2. 整備方針

新幹線時代には、並みある魅力的な新幹線駅と肩を並べ、集客・誘客につながる情報発信を強いられる。コンセプトについては、一目で分かりやすい、魅力的な旅の提案でなくてはならない。飯山の歴史や文化を踏まえつつ、将来に向けた戦略を踏まえ、既存の観光資源を磨き発展させることがスタート地点となる。まちなかにはたくさんの資源がある。これらを「魅力的なまち」「行ってみたいまち」「歩いて楽しめるまち」レベルまで高めなければならない。

飯山は「雪国の小京都」と呼ばれるほどお寺の多い城下町である。白隠禅師ゆかりの正受庵をはじめ、島崎藤村「破戒」のモデルとなった真宗寺など、多くの古刹・名刹が並んでいる。

また、高橋まゆみ人形館も開館し「日本のふるさと」を感じられる街である。歴史ある街、雁木、飯山仏壇や内山紙、雪国ならではの文化などは飯山の特色ある魅力である。

新幹線飯山駅からまちなかまで、道行くたびに、歴史、文化、伝統など、厚みのある観光まちづくりが感じられなければならない。まちなか観光を長期的な展望にたって形成し推進するため、整備方針を「雪国の『歴史と信仰の城下町』 四季の彩り魅せる街」とする。

3. 事業の方向性

観光でまちなかを発展させるためには、牽引力のある観光の目玉が必要である。まちのシンボルである城山を観光ポイントとして磨き、城下町を散策エリアとする。歴史的なたたずまいを持ち、文化伝統を重んじるまち。仏壇が立ち並び、雪国文化があふれる街並みに合わせ、「食」を中心に事業展開を図る。また、新幹線時代には、総花的なPRでは立ちゆくことができない。観光の核をしっかりと成熟させ、分かりやすい観光によって力強いPR展開を行う。

旅行者としての目線では、「見る」「食べる」「楽しむ」にまとめられる。そもそも旅行の動機とは、①日常生活からの解放、②旅先のおいしいものの発見、③保養・休養などに代表される。旅の原点は、出会いと感動である。異国文化との出会いには感動が伴う。ハード事業では「見る」を創出し、ソフト事業ではサービスの充実

を図る。まち自慢ができるような、観光まちづくりを展開していく。

4. 事業の手法

飯山に期待される旅とはなんであるか。飯山の旅に価値があること。価値を見いだせることが、事業手法の糸口である。価値を感じさせる街並みやサービスの提供が、観光まちづくりの事業手法となる。

事業の組立には、専門的リーダーや市民組織との話し合いを持ちながら、旅行者の中心となる女性の視点で、ストーリーづくりを進める。飯山の資源を「歩く旅」という目線でストーリーを組み立てたマップとし、魅力を発信する。また、商店街の回遊性には、ポイントとなる核の創出を見だし、街並みと「食」によって連続性を持たせる。地域の特産を活かした「食」は、飯山の魅力づくりに欠かせない。

観光まちづくりとしては、核の創出とともに点と点をつなぐ観光マネジメントを検討する。この考え方は、城山と人形館、個人のお店など官民のつながりに重点を置いて、サービスを充実させる。回遊性のあるまちづくりには、回遊するための動機付けが必要である。お客様の立場で、官民を超えた魅力的なつながり、おもてなしが必要である。

ソフト的な整備については、短期的・継続的な取組となる。現在ある観光資源から提供できるイベントやガイドブックなどであり、実践を重ねながら、ソフトの充実に努める。

インパクトのあるハードによって牽引し、経済効果の得られるようなサービスによって地域の振興を図る。取組が市外地観光から広域観光へと広がり、新幹線飯山駅が誘客・乗降の台風の目になるようリーダーシップに務める。

5. 推進期間と整備

事業計画は、短期的な事業と長期的な事業、継続的な事業に分類される。当面の目標を新幹線開業までに行うべきこと、開業後も方向付けに向かって進めるべきことに事業を整理する。

新幹線開業前の3ヶ年、平成22年から平成24年までを第一期とし、目だしとしての基盤づくりを行う。開業前後の3ヶ年、平成25年から平成27年を第二期とし成長期とする。

第一期では観光の核を創出することを主眼におきながら、アトリウムや駅周辺の整備を進め、第二期からは新幹線飯山駅とこの核をつなぐ事業展開を行う。

6. モデルコースによる重点整備コースの設定

回遊性の観点から、歩くコースとしていくつかのモデルコースをシュミレーションし、この中から整備すべき観光ポイントとコースを検討する。

① 歩くコースの選定

項目	歩くコースと観光ポイント
歩くコース 1 (二時間)	人形館・愛宕町・城山
歩くコース 2 (三時間)	人形館・愛宕町・正受庵・城山

城山下駐車場などの位置的な関係から、車利用での重点ルートとして位置づけることができる。

7. 観光資源の整理

飯山市にはたくさんの観光資源が存するが、効果的な事業投資とするために、現在保有する観光資源を上記モデルコースの中から次のとおり分析・整理する。

① 重点歴史的資源

項目	ハード整備	ソフト整備
飯山城址公園	◎要整備	◎要整備
正受庵	済	◎要整備
真宗寺	不要(周辺整備)	◎要整備

飯山城址公園は歴史的な背景を持つが、訪れた人にとっては分かりにくい。分かりやすいハード整備と読みやすいガイドブックとガイドなどによって、語れる飯山城址とする。

正受庵は日本臨済宗列祖の寺である。真宗寺は日本に誇れる歴史や文学者が係わったお寺である。ハード整備については、お寺に立ち入って行うことはできない。遊歩道や25m道路などを中心に周辺整備を検討する。

② 文化的資源(島木赤彦、土田耕平、荻原井泉水、島崎藤村など)

文化人と文学碑	済	◎要整備
---------	---	------

お寺に点在する文化的資源をストーリーづくりに役立てる。

③ 芸術的資源

高橋まゆみ人形館	済	(指定管理)
----------	---	--------

④ 景観街並み資源

項目	ハード整備	ソフト整備
寺めぐり遊歩道	○要整備	○植栽、看板
愛宕町雁木通り	○立て格子の設置	○花飾り
北町通り	不要	○花飾り
仲町通り	○街灯の見直し	○花飾り

景観街並み資源の創出には、演出が必要である。整備には、コンセプトに基づくデザインが伴わなくてはならない。歩道、植栽、街灯、看板などには、機能以上に観光的な配慮が必要である。新幹線飯山駅から統一的なデザインが求められている。(演出)

愛宕町は雁木とお仏壇店によって、特色あるまち並みを創出している。しかし、観光としてふと立ち寄るには、携わりにくいのが現状である。お仏壇風喫茶・土産品店などといった立ち寄れるお店への展開が望まれる。(民の展開)

⑤ 観光的公共施設

美術館	済	(自主運営)
伝統産業会館	不要	(指定管理)
ふるさと館	不要	(自主運営)
手すき和紙体験工房	不要	(自主運営)
奥信濃展示試作館	○要検討	○伝統工芸匠の展示
ぶらり広場	不要	(指定管理)
飯山案内処	○要検討	(飯山案内処運営協議会)

観光的公共施設については、全体的な関連性を検討する。共通チケットやパンフなどによって連携を高める。(観光マネジメント)

展示試作館については、伝統工芸の匠としてお仏壇作成の技術を使った創作的な作品展示を検討する。

飯山案内処は、新幹線飯山駅の開業と共に、新幹線飯山駅と観光の核をつなぐ役割を背負っていく。駐車場もあり、何らかの営業も可能な施設である。幅広い視点から利用を検討する。

8. 総合的な施策の検討

飯山市が観光客に提供できる旅の魅力、与えられる感動とはなんであるか。まずは、この命題を解かなければならない。

街並みとは、社会、環境、経済によって成り立っている。街並み散策からは、地域の繁栄が読み取れる。何年、何十年という時間的な経緯によって、街並みは形成されている。これらを、ふとたちよることによって観ることができるのが観光である。長期的な展望にたって、これからを構築し、飯山文化の繁栄が街並みに感じられるような観光まちづくりを進める。

第一に、「歴史的・文化遺産」である。文化や歴史ある飯山町であるが、抜きんでた分かりやすい観光資源に乏しいといえる。シンボルを城山と定め、街並みは城下町として、歴史や風情が感じられる整備を行う。

飯山城は、戦国期と近世の歴史が残る城である。上杉謙信、武田勝頼、上杉景

勝、三武将が携わった城である。見て分かる整備として、石垣、土塁、枡形など郭の保全を行い、城の原形が明確に打ち出せる整備を検討する。軍事的拠点、春日山城の防衛や境目の城、権力の象徴として本丸・二の丸などからの壁田城や千曲川、正受庵、愛宕山などの歴史的な眺望が望める整備を検討する。

第二に、「四季の変化を楽しむ」である。緑や花を用いて明るく快活なまちづくりを行う。観光の基本はおもてなしとまちの繁栄である。遊歩道沿いや商店街など花や緑で演出し、四季に応じた美しいまちなみを創出する。

第三に、「サービスの提供」である。サービスとはお客さま目線である。官民を超えた情報の提供、観光マネジメントサービスの提供を行う。

- ① 観光マネジメントを考えた季節情報誌の発行。
- ② 「歩く旅」としてルート設定を記載したガイドマップをさらに進化させ、数々のテーマでのストーリーづくり。(寺町とスイーツ巡り、上杉謙信と飯山城、内山紙と飯山仏壇、雪国文化と富倉ソバ・郷土料理など、テーマによる物語が飯山をいっそう魅力づける。)
- ③ お寺めぐりとしては、お寺の写真や挿絵、歴史的な背景を記載したガイドブックの発行。(観光ガイドボランティアらがこれらのガイドブック等を活用してツアーを開催する)
- ④ 上記にあわせて民の広告掲載や割引チケットなどの導入。
- ⑤ 観光ガイドボランティアの育成と活用。(従来は、寺めぐりに特化したガイドであったが、広く田園風景や街並み散策まで語れる観光ガイドを育成する。賑わいが予定される人形館などで、お客様のご案内やおもてなしを行い、まちなかへと誘導する。また、ガイドツアーの開催により寺めぐりのみならずスイーツ店、お仏壇店などにもおこしいたけようなツアーコンシェルジェを展開する。)
- ⑥ エージェント向け商品の充実として、団体客を中心とした特別商品枠の設定。
- ⑦ 観光施設の共通入館券の設定とセット商品(割引)の企画。

◆観光マネジメント(官と民の連携)

観光マガジン	季節情報誌の発行
ガイドマップの見直し	見どころと食、まち情報の提供 まち歩き(ストーリーづくり)
ガイドブック(寺めぐり・歌碑)	歴史散策ブックの作成
食べ歩きチケットの導入	お店の割引チケット(民へとの連携)
観光ガイドボランティアの育成	まちなか散策ほか(ツアーの開催)
エージェント向け旅行商品の開発	団体向け商品の開発

セット商品の開発（観光施設の連携）	ふるさと館・美術館・伝統産業会館・手すき和紙体験工房・人形館などのセット商品
-------------------	--

第四に、「住民活動の活性化」である。飯山市はコミュニティによって、フラワーロードや花飾りを推進してきた。地域活動の原動力は住民にある。意欲を駆り立てる支援を検討する。

- ① コミュニティによる名所づくりや花飾り運動の支援。

第五に、「経済活動の支援」である。リスクを伴う経済活動は、民にとってかなりの余力や体力を要する。意欲ある活動家の躍進によって、経済活動は活性化する。

- ① 起業や経営拡大など民間活力の活用支援。

第六に、「地域の食」の提供である。地域で採れた農産物には、鮮度や美味しさ、地域の特色がある。品質が高くおいしい食の提供は、地域の特色であり活性化の糸口となる。

- ① お食事・喫茶の充実など、空き店舗や、既存店舗の活用。
- ② いなかファーストフードの開発と、お手軽な食の提供。
- ③ グッズ・お土産品の開発。（伝統工芸の技術を活かしたお土産品の他に雪国ならではのてづくり商品、「地域の食」を活かしたお土産品の充実に努める。）

◆住民活動の活性化と支援

花飾り	お店、住宅、街並み
お食事・喫茶	既存飲食店の支援、空き店舗の活用 農家レストランなど
いなかファーストフードの開発・販売	おやき、笹寿司など
グッズ・お土産品の開発・販売	雪国文化が香る商品の充実 「食」のお土産品 伝統工芸を活かしたお土産

第七に、「二次交通」である。新幹線飯山駅からまちなかへの二次交通を考えると、距離と時間、タイムリーな利便ということでタクシーの活用が基本となる。エコとして、コミュニティバスや自転車などの利用も考えられ、ストーリーづくりにあわせて検討する。

歩こぶこぶやま

雪国の『歴史と信仰の城下町』
四季の彩り魅せる街

のんびり歩くミニツアー
 歩くミニツアー約3.5km(3時間コース)
 ふらっと立ち寄りルート 約2km(2時間コース)
 寺めぐりルート

回遊性のあるまちづくり整備計画		年度	整備目標
第一期	H22~H24	城山・人形館・寺町を中心とした観光の核の創出	
第二期	H25~H27	新幹線飯山駅と観光の核をつなぐ観光まちづくり	

高橋まゆみ館
 平成22年4月
 愛宕町
 雪と寺の町公園にオープン!

愛宕町雁木通り
 約300mにわたる雁木通りには11もの土産店が軒を連ねています。これだけの土産店が集まっているのは全国的にも大変珍しく「仏蘭通り」とも呼ばれています。

展示試作館「奥信濃」
 0269-67-2930
 09:00~17:00
 休(火曜日・冬期間) 料無料

飯山手すき和紙工房
 0269-67-2794 営9:00~17:00
 休(月曜日、12/29~31) 包紙1枚500円
 料/はがき1枚200円

飯山市伝統産業会館 0269-62-4019
 休(月曜日、12/29~31) 包紙1枚500円
 料/はがき1枚200円

飯山市美術館 0269-62-1501
 営9:00~17:00
 休(月曜日(休日の場合は翌日休))
 料/大人300円、小・中学生200円(前席共通)

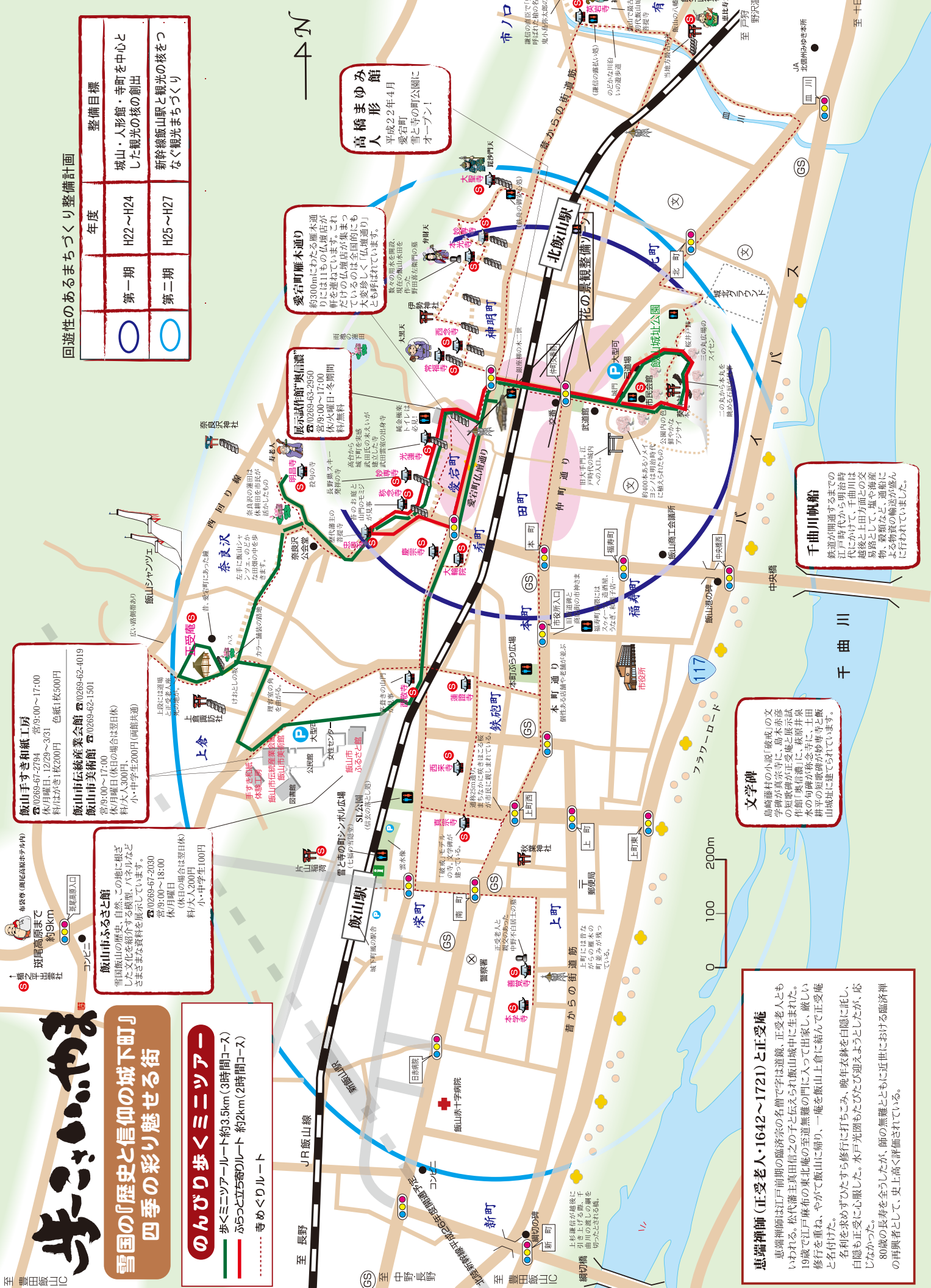
飯山市ふるさと館
 雪国飯山の歴史、自然、この地に根ざした文化を紹介する模型、パネルなどさまざまな資料を展示しています。

0269-67-2030
 営9:00~18:00
 休(月曜日)
 料/大人200円、小・中学生100円

恵端禪師(正受老人・1642~1721)と正受庵
 恵端禪師は江戸前期の臨済宗の名僧で字は道庵、正受老人ともいわれ、松代藩主真田信之の子と伝えられ飯山城下に生まれた。19歳で江戸麻布の東北庵の至道無羅の門に入って出家し、厳しい修行を重ね、やがて飯山に帰り、一庵を飯山上倉に結んで正受庵と名付けた。名利を求めずひたすら修行に打ちこみ、晩年衣鉢を白隠に託し、白隠も正受に心服した。水戸光圀もたびたび迎えようとしたが、白隠も長寿を全うしたが、師の無羅とともに近世における臨済禅の再興者として、史上高く評価されている。

文学碑
 島崎藤村の小説『破戒』の文学碑が真宗寺に、高木赤彦の短歌碑が正受庵と展示試作館「奥信濃」に、萩原井泉水の句碑が真宗寺に、土田耕平の短歌碑が妙専寺と飯山城址に建てられています。

千曲川帆船
 鉄道が開通するまでの江戸時代から明治時代にかけて、千曲川は越後と上田方面との交通路として、米や海産物、穀類など運搬に用いられる輸送が盛んに行われていました。



至 斑尾高岡まで 約9km
 至 豊田飯山IC
 至 中野長野
 至 豊田飯山IC

